

藤棚新聞



第17号

発行

2011年 4月20日

藤棚新聞運営委員会

東日本大震災をいっしょに乗り越えよう！

東日本大震災で被災された方がたにお見舞い申し上げます。また亡くなられた方がたにこころからお悔やみ申し上げます。

一日も早い復旧を目指して、被災地のみなさまのお役に立つために横浜市役所や西区役所からも職員が現地に救援に向かっています。避難所として横浜市では磯子区のたきがしら会館、金沢区の野島青少年研修センターと群馬県の赤城林間学園を、県は港北区の武道館・柔道場を用意して、市営住宅や社宅でも避難された方がたを受け入れようとしています。また計画停電は各地で不便をもたらしていますが、このために節電の意識も高まっています。

ボランティアについては、被災地に行って復旧の手助けをするときの基本は「自己完結」といわれています。自分の健康は自分で管理するというだけでなく、被災地までの移動

手段、宿泊場所、食料の手当や作業に必要なものは自分で用意するというでしょう。



～災害時のボランティアの活動について～
「災害救援ボランティア活動には大きな期待が寄せられますが、一方で、ボランティア活動が被災地の人々や他のボランティアの負担や迷惑にならないよう、ボランティア一人ひとりが自分自身の行動と安全に責任を持つ必要があります。」

<社会福祉法人全国社会福祉協議会のホームページから>

一方、被災地には行けないけれど自分に何かできることはないだろうかという声も聞きます。送った品物や義援金はきっと役立ててもらえるでしょう。買い溜めを控えることも効果的です。そして正確で詳細な情報の公開を求めて、冷静に向き合いましょう。放射線物質についてもわかるようすることで冷静な判断を得られるようになります。風評に惑わされずに新鮮な野菜など被災地の品物を購入することが支援につながります。

ボランティアについて教えてもらうために訪ねた社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜市ボランティアセンターの若林さんは「義援金の金額は少なくてもよい。募金活動をしている人たちに『ごくろうさま』と声掛けをしてあげると勇気を与えてあげられる」と話しました。なお、たきがしら会館と武道館・柔道場にはたくさんのボランティアの申し出をいただいて、今は受け付けていないそうです。



横浜市ボランティアセンターの連絡先

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会 横浜市ボランティアセンター

電話 / FAX : 045 - 201 - 8620 / 045 - 201 - 1620

メール : yvc@yokohamashakyo.jp

東日本大震災 「にしく名・達の会」が街頭募金

東日本大震災で被災された方がたを支援しようと、4月10日に「にしく名・達の会」の人たちが街頭募金をしました。

藤棚地区の16号線を挟んだ両側の商店街に募金箱を持った人たちが立って、チンドン屋、操り人形と口笛の人たちが練り歩いたほか、ペンシル・バルーン、マジックやフェイス・ペイントで盛り上げました。

おおぜいの買い物のお客さんやお店の人たちが通りに出て、宣伝の人たちと楽しく会話をしながら募金しました。集まった募金は社協を通じて被災地に贈られるそうです。



こんにちは、グループ！ 「瀬川フラワーアレンジメント」



作り上げる楽しみいっぱいの藤棚地区センターの教室・・・ご婦人方が真剣な眼差しでフラワーアレンジに取り組んでいました

指導されている瀬川さんは、6歳のときに母親から生け花の手ほどきを受け、高校生になってからはフラワーアレンジにも挑戦、さらにレベルアップを図るためにオランダに留学、英・仏の先生からも学び、現在「和の生け花」と「洋のアレンジ」を結びつけ美しく飾る「お花の世界」を目指すといます。

藤棚地区センターでは火曜コースと木曜コース、さらに母校の高校でPTAのお母さんたちの教室も受け持ち、手作りのブーケを結婚する娘に贈るのが夢と言うご婦人も居られるようです。材料は、生花・ドライフラワー・シルクフラワー・プリザードフラワーと多種にわたりますが、出来るだけ「安い費用」で気軽に楽しんでいただけるよう気を配っておられます。



気になるお店シリーズ

イセ畜産



おいしくてボリュームたっぷりのお弁当が評判の[イセ畜産]を訪ねました。社長は東京オリンピックが開かれた昭和39年生まれ、「3代目の社長」にお聞きしました。創業は昭和6年、水道道で開業、その後現在の藤棚商店街の中央に移ったようです。

学校給食用の食材の納め、新鮮なお肉とお勤めの主婦に喜ばれる日替わりのお惣菜の店頭販売、そしてお弁当。なかで

も社長自慢の炭火焼の「チャーシュー」と管理栄養士の資格を持つ奥さんが作るお弁当は評判です。242-1129 242-1186 ニシニ、イイニク、イイハム と電話番号も凝っています。元気のよい呼び込みの聞こえるお店です。

ベルマーク運動で設備充実 稲荷台小学校PTA



図書室でベルマークを仕分けする PTA

みなさんは、「ベルマーク」をご存じですか。日常生活用品などについている、あのベルマークのことです。1962年といいますから今から49年前、稲荷台小学校PTAのみなさんはこれを集め、会社ごとに整理してベルマーク教育助成財団に送って学校の設備を充実させるベルマーク運動を始めました。今年度は大型絵本シアターワゴンと絵本棚を備えることができました。スタンプの収集は稲荷台小学校の児童とそれぞれの家庭でするほかに、スーパーマーケットの「たてば」、藤棚ケアプラザと稲荷台小コミ八にも収集箱が置いてあります。ベルマークは同財団に送ると同時に同財団を通じてさまざまな教育のための援助資金にもなっています。

コラボフェスタ2010 H22年度活動にくぎり

西区を中心に活動している人や市民活動団体につながりを作って顔の見える関係を築こうと「コラボフェスタ2010」(コラボフェスタ実行委員会、にしく市民活動支援センター主催、横浜市市民活動支援センター協力)はH22年6月に発足してから、今年1月19日にH22年度の活動成果として「コラボフェスタ2010記録」を完成しました。



満開のモクレン

3月30日 銭湯「天平館」の前

アロハ〜 戸部コミュニティハウス



戸部コミュニティハウスは地域のみなさんに気軽に利用していただく施設として平成8年3月に戸部小学校と道路を挟んだ今の場所に開館しました。もともとは掃部山公園にあった青少年の家を能楽堂開設によって壊すことの代替施設として作られたそうです。

大きなガラスから日光がふんだんに入る明るいコミ八には地下1階から2階までに団体活動で使う4つの部屋があります。中でも70人が入る地下のレクリエーションルームは大きな鏡

があって、フラダンス、カラオケ、大極拳やヨガなどに利用されて稼働率は9割の人気だそうです。また、和室にはここに以前あった施設の優雅な欄間があります。

館長の小澤さんは「地域活動の拠点として、子ども会、町内会や自治会などの地元団体の利用が活発で、未就学児や赤ちゃんをもったお母さんのサポートに根強い人気があって気軽に来ていただけます」と話しました。



5人の職員が交代で勤務していて、毎月第3月曜日の施設点検日(祝日の場合は翌平日)と12/29~1/3は閉館日です。

4月23日(土) 緊急報告会開催

「東日本大震災 今、私たちにできること」

東日本大震災は、未曾有の被害と多くの被災者をだしました。全国、そして世界からの支援

が必要であり、復興への困難な道のりが想定されます。今、この横須賀の地から私たちは何を考え、何をしたらよいか。市民、NPO、行政、全ての人々が共に考える緊急集会です。

第一部 基調講演「今、私たちにできること」

第二部 ボランティアから現地の最新報告(3団体)

第三部 継続した支援を - NPOは、行政は、そして私たちは -

開催日時： 2011年4月23日(土) 10:00~13:00 (開場9:30)

参加費： 無料 定員：先着500名(予約不要)

会場： 神奈川県立 保健福祉大学(講堂) 京急「県立大学駅」から徒歩8分

問い合わせ先：事務局・横須賀市立 市民活動サポートセンター TEL046-828-3130

市民活動サポートセンターのチラシから

横浜メルヘン画



横浜メルヘン画会提供



ことしも母の日に
とっておきの
ティータイムを
プレゼントしよう

昨年に続いて障害のある方の作業所「ゆめづくり三番館」など5ヶ所の協働によるクラブが今年も母の日に向けてすてきなプレゼントを販売します。

“ものを大切に”を



テーマにしています。予約の締め切りは4月22日です。

代表申込先：045-309-9819(ゆめづくり三番館)

ふすま(新規・張替)・障子(張替)・天井
どんなことでもご相談下さい

和幸内装
since 1980
代表 和田 泰次

TEL 045 (241) 7912
〒220-0062 横浜市西区東久保町9-38

壁ノコ入貼リ・床・内装工事一式

一番人気は春キャベツの
野菜かき揚げ !!

小井かまぼこ
YOKOHAMA

電話 045(321)7876

いっしょに藤棚新聞を作りませんか。取材・写真・編集・印刷・配布をします。また、広告の掲載も募集しています。下記の藤棚新聞運営委員会にご連絡ください。

【発行】藤棚新聞運営委員会 〒220-0053 横浜市西区藤棚町1-99-4【電話/ファクス】045-261-1052